

a 学校教育目標	自律の精神の確立と主体的に学ぶ生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 「社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成」 【ビジョン】(自校の将来像) 「生徒が、安全で安心して有意義に過ごせて、社会人としての資質・能力を身に付けられる学校」 (めざす学校像) ・安全で安心して有意義に過ごせる学校 ・笑顔忘れず、明るく温かく人に接し、「ありがとう」があふれる学校 ・夢を志に高める学校 ・自信を持ち光り輝いて行動し、活力のある学校
----------	----------------------	----------------------	---

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7 月	2 月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の定着	授業改善による確かな学力の定着	「対話」と「振り返り」の充実を図り、生徒が自律的に学びに向かう授業づくりの推進	○「本郷中スタンダード」(授業モデル)を活用した授業づくり ○1人1研究授業の実施及び相互参観 ○学び合い、ファシリテートを考慮した授業づくりの推進 ○ICT機器の効果的な活用	生徒授業アンケート「考えたことなどを書いたり表現したりする時間が多く取り入れられている」の肯定的評価の割合	90%	91%	96%	107%	A	・昨年度より達成値が向上した。 (R5:92%→R6:96%) ・どの学年も前期より数値が向上した。 (1年:89%→92%、2年:93%→95%、3年92%→99%) ・定例の授業研究・研究委員会を中心に取り組んだことに成果が出ている。	・年度末(現メンバー)及び年度初め(新メンバー)に全職員で本郷中の取組の確認・改善のための研修会を実施し、共通認識を持ち実践できるようにする。 ・学校経営会議のメンバーが各種委員会(生徒指導委員会・研究委員会・教育相談・特別支援委員会)や日々の職員連携の中で取組のポイントをつなぐことができるよう、学校経営会議の内容を改善する。 ・取り組む目標と結果・その原因等が分析しやすいよう目標設定とその見取り方を精選する。	3	0	0	・準備と工夫がなされ、肯定的かつ温かい雰囲気の中で生徒が主体的に学習を進めている様子が見られた。学校経営会議での取組改善や、共通認識を持つための全教職員研修会の開催など、学校の教育方針に係るベクトルをそろえることは、その効果を加速させるために必要であると考え。ぜひ継続していただきたい。
			生徒授業アンケート「グループ活動やペア活動がよく取り入れられている」の肯定的評価の割合	90%	85%	89%	99%	B	・昨年度より達成値が向上した。 (R5:87%→R6:89%) ・どの学年も前期より数値が向上したが目標値には1ポイント届かなかった。 (1年:75%→82%、2年:89%→91%、3年90%→95%) ・定例の授業研究・研究委員会を中心に取り組んだことに一定の成果が出ている。	3		0	0	・基礎学力向上は小学校としても大きな責任を感じている。生徒の主体性が向上している今こそ、生徒の思考・表現の場の設定・増加をさらに進めていくことが必要だと考える。本郷中学校区幼保小中連携協議会での小中が連携した取組を、歩調を合わせて進めていきたい。	
		基礎・基本的な内容を定着させる学習習慣の確立	○「本GOノート」の効果的活用と、統一した組織的な取組 ○家庭での学習習慣を確立するための目標学習時間(最低90分以上)の達成	1月の実力テストで、各学年各教科の平均点が50点を上回る教科数の割合	80%	36% 8月テスト	20% 1月テスト	25%	D	・15教科中(5教科×3学年)3教科しか達成できず目標を大きく下回った。 (1年:国語49.7、社会46.3、数学42.8、理科54.5、英語46.1) (2年:国語58.4、社会42.9、数学42.0、理科39.5、英語44.9) (3年:国語52.8、社会42.5、数学38.9、理科36.4、英語41.0)		3	0	0	・「対話」と「振り返り」を授業の中で行っていると回答する生徒が96%もいることが、本郷中学校の授業改善の深化を表していると思います。生徒が主人公の授業を今後も期待します。
				生徒生活アンケート「家庭学習時間の目標学習時間を達成した」割合	80%	57%	60%	75%	C	・今年度前期、昨年度よりともに達成値が向上した。 (R5:59%→R6:60%) (前期:57%→後期60%) ・目標値には大きく届いていない。 ・2年生に特に課題がある。 (1年63%・2年48%・3年71%)		3	0	0	・生徒の声に謙虚に耳を傾ける先生方の姿勢があると思います。生徒にとって、分かる楽しい授業の創造が見られ、大変素晴らしいです。 ・基礎・基本の学力定着に課題がある要因には小学校段階の課題も大きいと責任を痛感します。それぞれの学年でつけておくべき力を確実ににつけ切って進級・進学させていかなければなりません。
豊かな心の育成	積極的な生徒指導の推進	生徒の自主自律的な活動の推進	○生徒会活動の活性化による自治的風土の醸成 ○ボランティア活動の推進 ○集団づくりの推進	生徒生活アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」割合	80%	66%	67%	83%	B	・微増はしているものの、値が大きく変化していない。 ・保育実習など、学校外での活動を通じて、将来の夢を決めた生徒もいる。	・生徒会執行部の取組で「あいさつ運動」の登校時だけでなく、下校時にも実施するなど、生徒会執行部の取組を活性化する。 ・校外での活動後の事後指導の充実をさせ、ただ活動して終わるのではなく、その先のステップにつなげた指導を行う。	3	0	0	・学校内外で進んで挨拶をする生徒を本当によく目にする。先生方の指導の賜物であると感じる。だからこそ今後は、進んで挨拶できることを本郷中学校の誇りとし、校風としてそのよさに生徒自身が自信を持てるよう、生徒会執行部を中心とした、生徒自身が企画・実践する取組へとさらに発展させていってほしい。
		「生活三訓(あいさつをする・時間を守る・身だしなみを整える)」の徹底	○地域や保護者、来校者にレベル3以上(自分から会釈して)のあいさつ ○5分前行動、集会への無言入退場。 ○身辺整理(教室環境の改善)	生徒生活アンケート「地域や保護者や来校者へレベル3以上(自分から会釈して)のあいさつができる」生徒の割合	90%	88%	90%	100%	A	・目標値は達成したが、生徒間の差が大きい。 ・普段、声が小さい生徒でも会釈をするなど、努力が見られる。 ・できていない生徒へのアプローチを考えていく必要がある。		3	0	0	・生徒にとって、「地域を良くするために」というととても難しく大きなことに感じるのではないだろうか。今やっていることが、どんな意味を持つのか、意味づけされることで、身近なことが実は地域の役にたっていると感じることにつながると思います。(中学校ですでもすでにされているのかもかもしれませんが) ・あいさつは、小学校でもムラがあります。習慣化させる難しさを感じますが、みんなで取り組みましょう。 ・三原市ボランティアセンターの方とも話をしていますが、初めてボランティアに取り組む際に躊躇する子どもが多いため、その敷居を低くする取り組みを進めているそうです。
健やかな身体	自らの健康を自ら管理できる生徒の育成	自ら積極的に休づくりに励む	○食への感謝の気持ちの育成。(「弁当の日」の取組) ○基礎トレーニングの工夫等、体力向上の取組	体力・運動能力テストで全国平均を上回る種目の割合	80%	35%	80%	100%	A	・「自分で作るお弁当の日」に向けての食生活改善推進員を講師に招いた授業の実施や、「うまいぞ三原給食」での野菜生産者の方へのインタビューなどを通して、食への関心や知識が高まった。 ・体力・運動能力テストでは、男女全18種目中7月結果の6種目だったが、2月実施では15種目が全国平均を上回った。 ・体育時、体力向上のために走・跳の動きを取り入れた準備運動を取り入れ実践することができた。	・全国平均を下回った種目を向上させるために、単元ごとの準備運動や補強運動を工夫する。 ・体力・運動能力テストの実施前に、昨年度の自身の記録を確認し目標を立てさせ、意欲的に取り組ませる。	2	0	1	・体力向上については、目標設定のよさ・体を動かす楽しさや運動への主体性向上をめざした取組が功を奏しての改善であろうと考えられる。今後も取組の工夫を小中連携し、小学校でも取組の改善を進めたい。 ・体力の低下は小学校でも重要課題です。個々の目標設定や、単元での指導工夫について、効果的な方法があれば情報共有しながら取り組んでいきたいと思います。 ・地元の方々に向けて、地元の食材を使った料理の提案を行ったり、逆に地元の方から食材のリクエストを受け付けたりすることで、地元で検討して作付けを行い、提供できる仕組みを構築していければ良いと思います。
働き方改革の推進	ワーク・ライフバランスの確保	長時間勤務の縮減	・上限の日安時間を超えない時間管理の徹底(月45h) ・やりがい、働きがい(ウェルビーイング)の実感 ・定時退校日の厳守	・時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合 ・やりがい、働きがいを感じている教職員の割合	90%	65%	59%	66%	C	・月45時間以内の教職員の割合は、前回の達成値(65%)より6%減少した。時間外在校総時間数は、1年を通してどの月も前年同月より減少している。	・今年度の新たな取組であった夏時間毎日5時間・冬時間毎日6時間の日課を協議し改善を行う。また、行事と定期テスト問題作成・成績処理業務のタイミングやバランスを考慮した年間行事を組みなおす。 ・月45時間以内の教職員の割合は、前回の達成値(65%)より6%減少した。時間外在校総時間数は、1年を通してどの月も前年同月より減少している。 ・前回の7月の結果より減少した。働きがい低い教職員が1名増えたことによるものである。	3	0	0	・実態として時間外在校時間の減少が難しい中、工夫ある取組によって学校を挙げて働き方改革を進めておられることがよく分かる。 ・夏時間・冬時間の導入により、メリット・デメリットは両方あったと考えられるが、その検証を校内で今後もしていただき、生徒への教育効果向上に向けてよりメリットの大きな形になるよう取組の改善を継続していただきたい。 ・クラブ活動の良さも感じながら、大変さもよく分かります。生徒にとっても先生方にとってもやりがいのある、無理のない活動になるといいと思います。 ・激務の中、多くの先生方がやりがいを感じておられるという職場の風土づくり、大変素晴らしいと思います。本校でも、学ばせていただきたいです。
				90%	92%	81%	90%	B		・働き方改革において重要な役割を果たすのが、ICT機器の活用であると考えます。現状でも、意見を収集したり発表内容を表示したりするなど、ある程度活用されていますが、要点的集約や傾向の把握に生成AIを活用することで、的確な情報を素早くまとめ上げることが可能になると思います。 ・週5校時授業と6校時授業が成果を上げていることで他校の参考になると思うので検証的に続けてみたらと思う。年々、先生の意識向上が見られ、今後とも動めやすい職場に努めてください。					

【:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成)

C:60≦(もう少し)<80

【I:学校関係者評価 評価】

B:80≦(ほぼ達成)<100

D:(できていない)<60

I:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。